

# 総合通報システム じしんたすけ<sup>®</sup> 取扱説明書



1. 安全にお使いいただくために	2
2. システム機器	4
2-1. 構成機器と機能概要	4
2-2. システム機器の構成	5
3. 救助通報機	6
3-1. 各部の名称と機能	6
3-2. 各種データの設定	7
3-3. 通報動作の条件	7
3-4. 通報の起動	7
3-5. 通報停止の方法	7
3-6. 通報動作の流れ	7
3-7. 電源・電話回線・電話機の接続	9
4. 無線発信器	10
4-1. 各部の名称と機能	10
4-2. 認識コードの登録	10
4-3. 起動の方法	10
4-4. 電池交換の方法	10
5. オプション機器	11
5-1. 各部の名称と機能	11
5-2. 緊急通報用機器の設置	12
5-3. 火災通報用機器の設置	12
5-4. 相談・依頼通報用機器の設置	13
5-5. 安否確認通報用機器の設置	13
6. アフターサービス（保証書）	14
6-1. アフターサービスについて	14

ご使用になる前にこの取扱説明書をお読みいただき、正しくお使いください。お読みになった後も大切に保存して必要なときにお役立てください。

# 1. 安全にお使いいただくために

ご使用の前にこの「安全にお使いいただくために」をよくお読みのうえ正しくお使いください。

ここに記載された注意事項は製品を正しくお使いいただき、使用する方への危害や損害を未然に防止するためのもので、安全に関する重大な内容です。必ず守ってください。

記載した注意事項は危害や損害の大きさを明確にするために誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」と「注意」の2つに分けています。

## 警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

## 注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

本文には「警告」「注意」以外に誤った取り扱いをすると本来の機能を発揮できない内容や知っている便利な内容を「お願い」と「ワンポイント」に分けて記載しています

## STOP お願い

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本製品の本来の性能を発揮できなかつたり、機能停止をまねく内容および利用できない機能などの内容を示しています。




## ワンポイント

この表示は、本製品を取り扱う上で知っておくと便利な事項、および操作へのアドバイスなどの内容を示しています。









警告	
	AC 100 V 以外では使わない。 日本の家庭用電源 (AC100V) 以外のコンセントに接続すると、発火や感電、故障の原因となります。
	風呂、シャワー室で使用しない。 感電の原因となります。
	付属の AC アダプタ以外は使用しない。 火災や感電、故障の原因となります。
	タコ足配線はしない。 異常過熱、故障の原因となります。
	AC アダプタのコードが傷んだら使用しない。 そのまま使用すると火災や感電の原因となります。
	本機の上や近くに水などの入った容器や、小さな金属を置かない。 中に入った場合は、火災や感電の原因となります。
	雷が鳴り出したら AC アダプタを抜く。 火災や感電、故障の原因となります。
	水につけたり、水をかけない。 火災や感電、故障の原因となります。
	濡れた手で操作しない。 感電の原因となります。
	表示された電源電圧以外では使用しない。 火災や感電、故障の原因となります。
	AC アダプタはコンセントに確実に差し込む。 差し込み部分の刃に金属などが触れると、火災や感電の原因となります。
	AC アダプタのコードを傷つけたり、重いものを載せたり、無理に曲げたり、加工しない。 感電やショートによる発火の原因となります。
	穴や隙間にピンや針金などの金属や、燃えやすいものを入れない。 中に入った場合は、すぐに AC アダプタを抜いてください。 そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。 特にお子様にはご注意ください。
	万一、内部に水や金属などの異物が入ったら、使用しない。 そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。 すぐに AC アダプタを抜いて、販売店にご連絡ください。
	万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、すぐに電源を抜く。 そのまま使用すると火災や感電の原因となります。すぐに AC アダプタを抜いて、販売店にご連絡ください。
	床や壁の掃除などによって、電源アダプタやモジュラージャックに洗剤・ワックスなどが付着した場合は、すぐに拭き取る。 そのまま使用すると火災の原因となります。

# 1. 安全にお使いいただくために

## 警告

-  サービスマン以外の方は、絶対に機器本体および付属品を分解したり、修理しない。感電や故障の原因となります。内部の点検や調整、修理は販売店にご依頼ください。
-  機器本体および付属品を改造しない。火災や感電、故障の原因となります。
-  煙が出ている、変な臭いがするなどの異常な状態のまま使用しない。発火の恐れがあります。すぐにACアダプタを抜いて、販売店に修理をご依頼ください。

## 注意

-  直射日光のあたる場所、湿度の高い場所、ホコリや油煙の多い場所に置かない。火災や感電、故障の原因となります。
-  不安定な場所や振動、衝撃の多い場所に置かない。落ちたり、倒れたりしてケガの原因となります。
-  ACアダプタのコードを熱器具に近づけない。コードの被覆が溶けて火災や感電の原因となります。
-  使用中に通風孔をふさがない。過熱して発火する恐れがあります。
-  お手入れの際は、ACアダプタを抜く。感電の原因となります。
-  移動させるときは、ACアダプタを抜き、コード類をすべて外す。コードに傷がつき、火災や感電の原因となります。
-  ACアダプタを抜くときはコードを引っ張らない。コードに傷がついて、感電やショートによる発火の原因となります。必ずACアダプタの本体部分を持って抜いてください。
-  水滴がついたら乾いた布でふき取る。感電の原因となります。

## 上手にご利用いただくために

プラスチック部分は、シンナー・ベンジン・アルコール・化学ぞうきんなどでふくと、仕上げをいためますので、ご使用にならないでください。汚れがひどいときは、薄い中性洗剤をつけた布をよくしぼってから汚れをふき取り、やわらかい布でカラぶきしてください。

## 不具合が起きたときは

万一、異常や不具合が起きたときは、すぐにACアダプタをコンセントから抜き、お買い上げの販売店または最寄りの弊社営業所にご相談ください。

## 電波障害について

本システムは、起動に無線を使用した通報システムです。救助通報機を金属扉やコンクリート壁のかげ、ラジオ・テレビなどの送信所の近くなど電波の伝わりにくい場所に設置した場合、発信器からの起動信号を正常に受信しないことがありますので注意してください。

本取扱説明書は、システムを構成するすべての機器を1冊にまとめています。従って、この「安全にお使いいただくために」で、機器によっては該当しない項目が含まれています。

## 2. システム機器

### 2-1. 構成機器と機能概要

本システムの基本機器は急病・事故・火災などの緊急事態が発生したとき、緊急通報先の親族・協力者・消防署などに通報メッセージで緊急事態の発生を通報することができます。本システムは基本機器の他にオプション機器を組み合わせることにより、火災発生・各種相談・介護医療依頼・安否確認も通報することができます。

#### 基本機器

##### 救助通報機



本機の緊急ボタンや無線発信器の発信ボタンが押されたとき、または外部起動信号を感知したときなどに通報先の電話を自動で呼び出して通報メッセージを送出し、送信中または送出手に電話機またはスピーカーホンで通報先と通話することができます。通報先の電話番号は3通報系統のそれぞれに最大3ヶ所まで登録、また通報メッセージは通報先ごとに自由に録音できる救助メッセージと録音メッセージを登録することができます。救助メッセージはデータ設定ソフトに登録されている「私を助けてください」「緊急事態発生です」「火災発生です」「安否確認必要です」の4種類から選択することもできます。

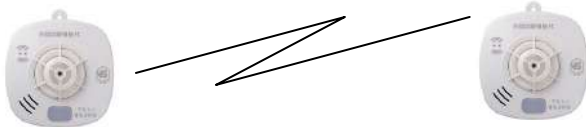
##### 無線発信器



発信ボタンを押すと無線で信号を送信して救助通報機を起動させることができます。無線発信器はペンダント型と腕時計型の2種類があり、1システムあたり10台まで使用することができます。

#### オプション機器

##### 無線火災感知送信器・受信器



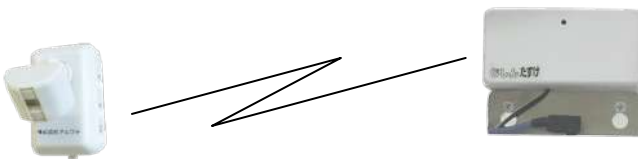
火災発生を感知して通報できます。

##### 押しボタン



各種相談や介護医療依頼を通報できます。

##### 無線人感センサー・別置センサー受信機



24時間・365日安否確認を通報できます。

##### 別置型スピーカーホン

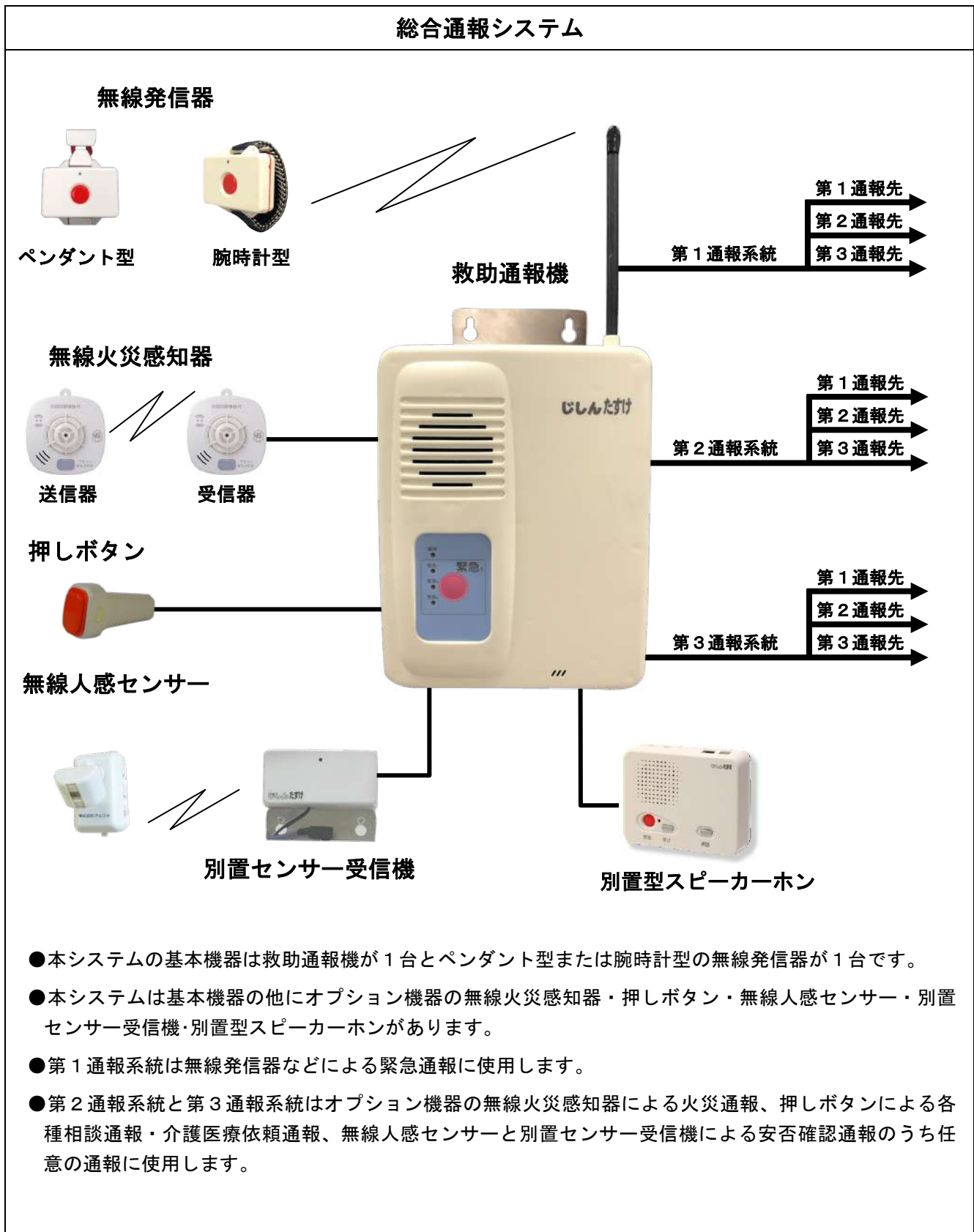


寝たきりの方などが便利に通話できます。

## 2. システム機器

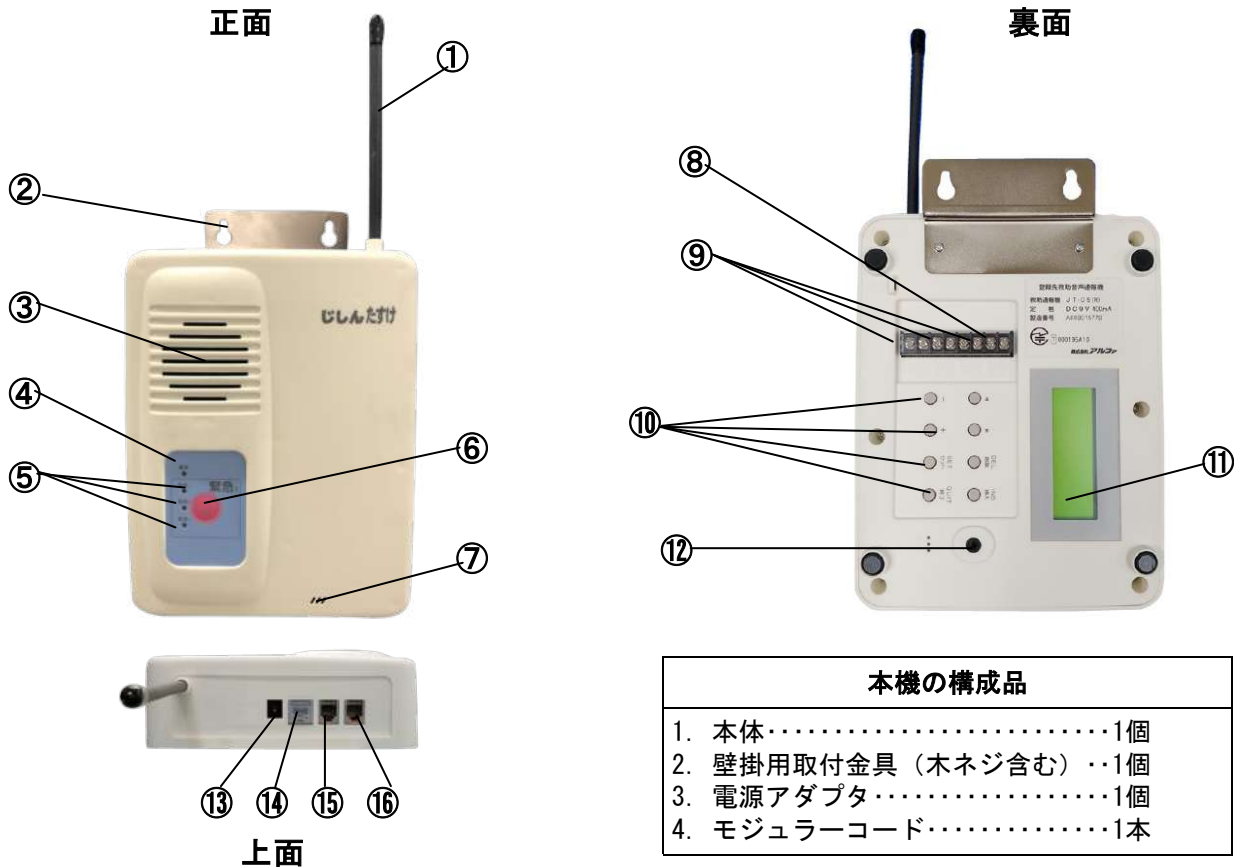
### 2-2. システム機器の構成

利用者の条件と希望に最も適したシステムを構成できます。



# 3. 救助通報機

## 3-1. 各部の名称と機能



本機の構成品	
1. 本体	1個
2. 壁掛用取付金具 (木ネジ含む)	1個
3. 電源アダプタ	1個
4. モジュラーコード	1本

No.	名称	機能
1	アンテナ	無線発信器からの電波を受信します。
2	壁掛用金具	壁などに取り付けるときに使用します。
3	スピーカー	通報メッセージの再生時の音声・通報メッセージの通報時の音声・通報先のスピーカーホンの音声などを拡声します。
4	電源ランプ	電源が入っているときは赤色で点灯します。
5	緊急1~3ランプ	第1~第3通報システムの呼び出しが設定されているときは該当ランプが赤色で点灯、通報動作中は該当ランプが点滅します。
6	緊急1ボタン	第1通報システムを呼び出すときに押します。また通報待機中・通報動作中に1秒間以上押し続けると通報を停止します。
7	スピーカーホン用マイク	通報先とハンズフリーで通話するときを使用します。
8	外部出力端子 (OUT)	オプション機器のパトライトなどを作動させるときに使用します。
9	外部起動端子 (CALL1~3)	外部スイッチ・各種センサーなどで通報を起動させるときに使用します。
10	データ設定ボタン	通報先の電話番号や通報メッセージなどの各種データを登録・変更・修正・削除するときを使用します。
11	データ表示LED	登録・変更・修正した各種データを表示します。
12	テープ等録音ジャック	テープレコーダなどから通報メッセージを録音するときを使用します。
13	電源アダプタ用ジャック	電源アダプタを接続するときを使用します。
14	スピーカーホン用ジャック	オプション機器の別置型スピーカーホンを接続するときを使用します。
15	回線用モジュラージャック	電話回線を接続するときを使用します。
16	電話機用モジュラージャック	電話機を接続するときを使用します。

# 3. 救助通報機

## 3-2. 各種データの設定

総合通報の各種データは別紙のデータ設定マニュアルに従って設定することができます。

## 3-3. 通報動作の条件

1. 通報先の電話番号については次の条件を満たしていること。
  - ①通報系統の3通報先のうち1ヶ所以上に電話番号が登録されていること。
  - ②前号①の通報先が《通報設定》の「ON」または「SPH」に設定されていること。
2. 通報メッセージを構成する救助メッセージについては次の条件を満たしていること。
  - ①前1項②号の通報先に設定した《救助メッセージ番号》の「1~3」にメッセージが録音されていること。
  - ②前号①の条件を満たしていなくてもメッセージを送出しない《救助メッセージ番号》の「0」が設定されていること。
3. 通報メッセージを構成する録音メッセージについては次の条件を満たしていること。
  - ①前1項②号の通報先に設定した《録音メッセージ使用》の「4」にメッセージが録音されていること。
  - ②前号①の条件を満たしていなくてもメッセージを送出しない《録音メッセージ使用》の「0」が設定されていること。

## 3-4. 通報の起動

1. 第1通報系統の場合
  - ①本機の「緊急1」ボタンを押したとき。
  - ②無線発信器の発信ボタンを押したとき。
  - ③外部起動端子の「CALL1」が無電圧の起動信号を感知したとき。
2. 第2通報系統の場合  
外部起動端子の「CALL2」が無電圧の起動信号を感知したとき。
3. 第3通報系統への通報の仕方  
外部起動端子の「CALL3」が無電圧の起動信号を感知したとき。



## 3-5. 通報停止の方法

1. 第1通報系統の場合  
本機の「緊急1」ボタンを1秒間以上押し続ける。
2. 第2~3通報系統の場合  
本機の「緊急1」ボタンを1回押した後に直ぐに1秒間以上押し続ける。



## 3-6. 通報動作の流れ

1. 通報系統の第1~第3通報先のうち電話番号が登録されている通報先を設定された《相手応答待時間》の間呼び出します。
2. 通報先が電話に出ると通報メッセージを構成する設定された《救助メッセージ番号》の「1~3」と《録音メッセージ使用》の「4」のメッセージを設定された《メッセージ送出回数》の「1~9」回繰り返し送出します。
3. 通報先が《通報設定》の「SPH」に設定されている場合は通報メッセージを「1~9」回繰り返し送出した後に通報先と本機でスピーカーホン通話ができます。
4. 通報先が電話を切る、または設定された《相手応答待時間》を経過すると次の通報先を昇順に呼び出します。
5. 通報系統が《通報完了条件》の「全て」に設定されている場合は、登録されている通報先のうち通報できない通報先には通報ができるまで通報を継続してすべての通報先に通報ができると通報動作を完了、また「1通報」に設定されている場合は、登録されている通報先のうち1ヶ所の通報先に通報ができると通報動作を完了します。

## 3. 救助通報機



### ワンポイント

《通報設定》が「SPH」に設定されている場合は通報先が通報メッセージの送出後に電話機から次のPB信号を送出することによりスピーカホン通話の機能を変更することができます。

- 「※※」を送出すると本機の受話が遮断され、通報先が本機からの音声をより鮮明に聞こえるルームモニター機能に変更します。
  - 「##」を送出すると本機の送話が遮断され、本機が通報先からの音声をより鮮明に聞こえる回線モニター機能に変更します。
  - 「00」を送出すると本機側と通報先側の双方通話になり、通常のスピーカホン通話に変更します。
- ※ルームモニター機能と回線モニター機能は変更後15秒で通常のスピーカホン通話に戻ります。

### 通報動作の流れについて、こんな場合は

- 通報先が留守などの場合は、設定された《相手応答待時間》の間呼び出した後に次の登録された通報先を昇順に呼び出します。
- 通報先が留守番電話などの場合は、通報メッセージを設定された《メッセージ送出回数》の「1～9」回繰り返し送出し、設定された《回線切断時間》を経過した後に登録された通報先を昇順に呼び出します。
- 通報先が話中などの場合は、直ぐに次の登録された通報先を昇順に呼び出しますが、通報ができるまで通報を継続して繰り返し呼び出します。
- 通報に応答する場合は、通報メッセージの送出中でも送出後でも電話に出て設定された《回線切断時間》の間は通報先と通話ができます。また電話に出られなくても通報メッセージの送出後であればスピーカホンで《回線切断時間》の間は通報先と通話ができます。
- 通報中に停電などになった場合は、通報動作を停止しますので改めて通報をし直してください。
- 通報中に別の通報が起動した場合は、通報中の動作が完了した後に別の通報を開始します。
- 本機に接続されている電話機で通話中に通報が起動すると通話を強制的に切断して通報を優先します。

### 通報先の対処方法



#### 1. 緊急通報・火災通報・安否確認通報の場合

- ① 電話で「どうしたんですか？電話に出るか、そのまま大きな声で話してください」などと大きな声で呼びかけてください。
- ② 通報者が電話やスピーカホンで緊急事態や火災の発生を連絡したとき、またはルームモニター機能で通報者の緊急事態や火災の発生が確認できたときは消防署に救急車や消防車の出動を要請してください。
- ③ 通報者が電話やスピーカホンでの呼びかけに応答しないとき、またはルームモニター機能で通報者の緊急事態や火災の発生が確認できないときは状況確認に駆けつけてください。

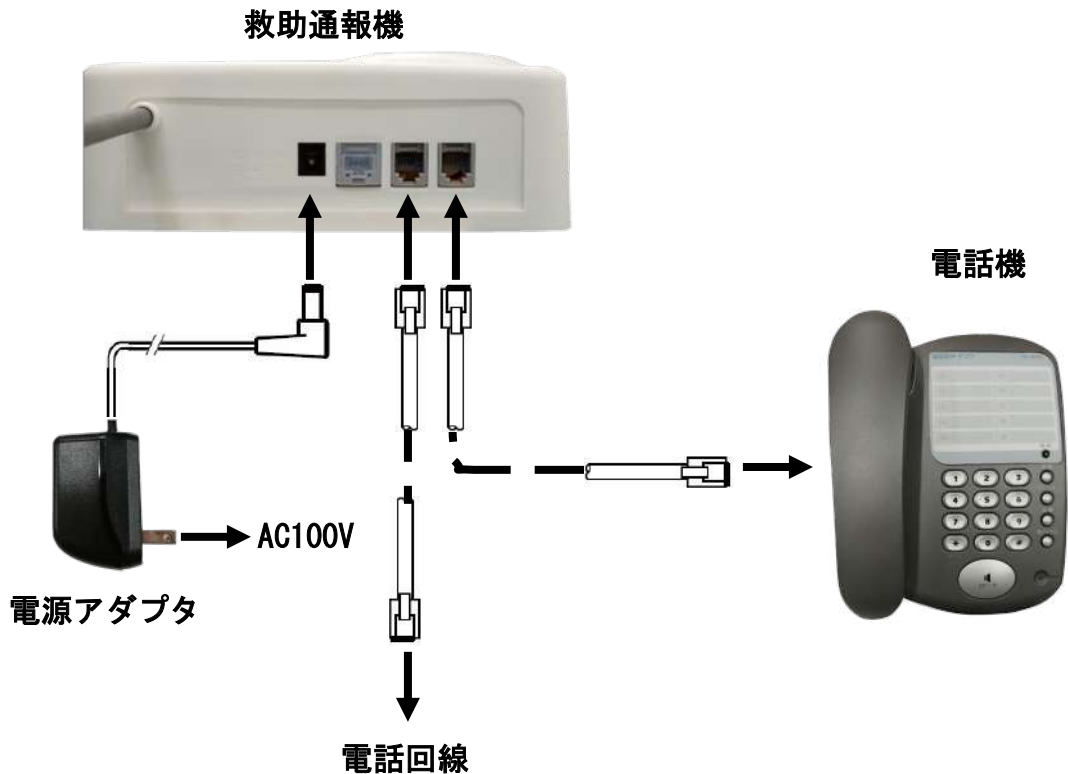
#### 2. 各種相談通報・介護医療依頼通報の場合

- ① 電話で「どうしましたか？電話に出るか、そのまま大きな声で話してください」などと大きな声で呼びかけてください。
- ② 通報者が電話やスピーカホンで各種の相談をしたときは対応してください。介護や医療の依頼をしたときは事前に指定された介護事業者や医療機関に訪問を要請してください。



# 3. 救助通報機

## 3-7. 電源・電話回線・電話機の接続



### STOP お願い

- モジュラーコードを差し込むときは「カチッ」と音がするまで差し込んでください。
- モジュラーコードを引き抜くときはレバーを押さえながら引き抜いてください。

### 救助通報機の設置方法

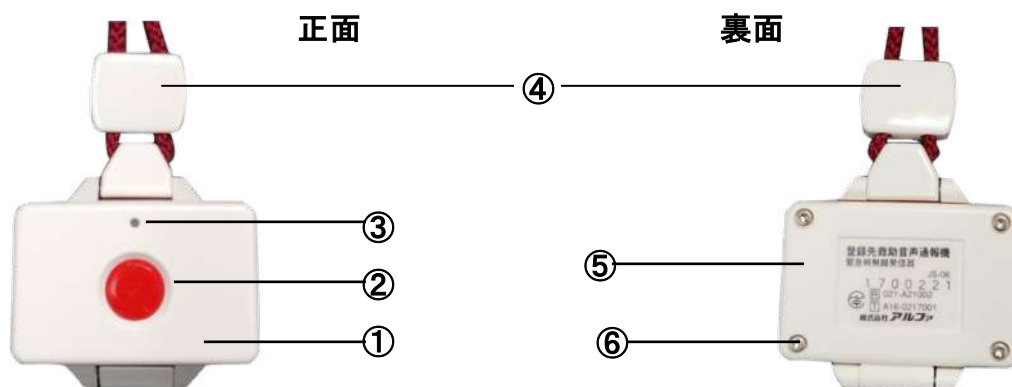
- 無線発信器などからの受信感度を保持するため、床から高さ1.5mの壁や柱などに垂直に添付の木ネジで取り付けてください。また壁掛けにできない場合には壁掛けに準ずる方法で設置してください。
- 壁がベニヤ板や石膏ボードなどの場合にはアンカーを使用して取り付けてください。

### 電話回線・電話機・電源アダプタに関する説明

- アナログ電話機が使用可能なあらゆる電話会社・電話回線に接続することができます。ただし、共同電話・公衆電話・地域集団電話には接続することができません。
- モジュラー式電話コンセントが取り付けられている場合は付属のモジュラーコードを差し込むだけで使用することができます。
- 単独電話機・多機能電話機などのあらゆる電話機を接続することができます。ただし、一部メーカーの特殊な電話機だけについては無償で貸与する電話機に交換させていただきます。
- 電源アダプタは常にAC100Vコンセントに接続しておいてください。万が一、電源アダプタが抜けた場合や停電した場合には本機は使用できなくなります。
- 電源抜けや停電しても通報先の電話番号や通報メッセージが消去されることはありません。

## 4. 無線発信器

### 4-1. 各部の名称と機能



No.	名称	機能
1	ケースカバー	本器の表蓋に使用します。
2	発信ボタン	救助通報機を起動させるときに押します。
3	発信ランプ	発信ボタンを押すと約3秒間・3回点灯します。
4	ペンダントガイド	ペンダント紐の長さを調整するときを使用します。
5	ケースボトム	本器の裏蓋に使用します。
6	取付ネジ	本器の表蓋と裏蓋を固定するために使用します。

### 4-2. 認識コードの登録

本器は指定した救助通報機だけを起動させるための認識コードが1台ごとに設定されているため、指定した救助通報機に使用するすべての本器の認識コードを7ページの各種データの設定に従って登録します。

### 4-3. 起動の方法

救助通報機を起動させるときは本器の発信ボタンを押します。

### 4-4. 電池交換の方法

本器は発信ボタンを約100回（発信回数は約300回）押したとき、または無発信でも2年間経過したときは、電池を交換しないと救助通報機を起動させることができなくなりますので、次の方法に従って必ず電池を交換してください。

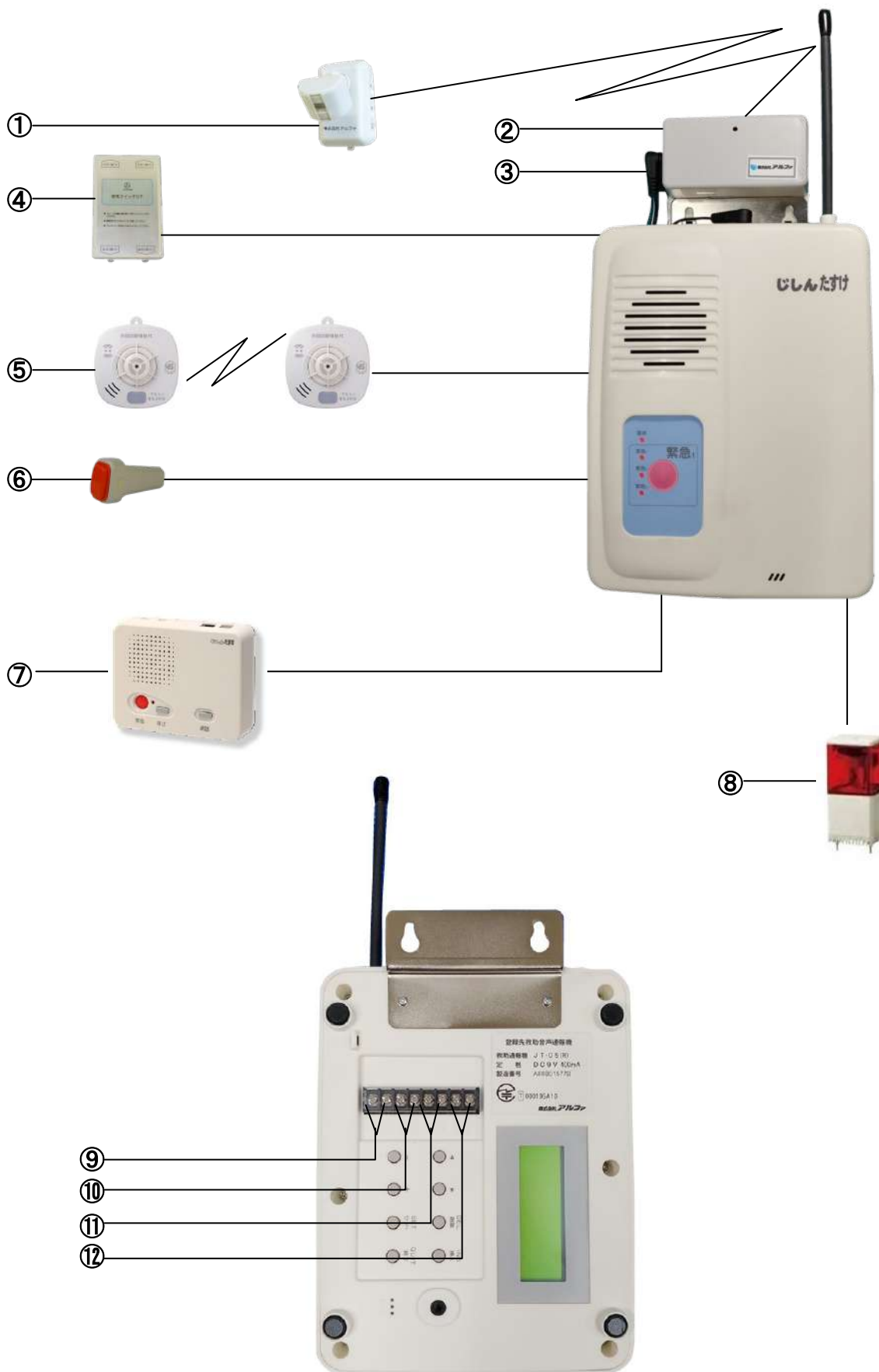
#### 電池交換の方法



- ① 取付ネジをトルクドライバーで取り外して裏蓋を外してください。
  - ② 古い電池を青色の専用道具で左図のように取り出してください。
  - ③ 新しい電池をプラス側を上にして挿入してください。
  - ④ 裏蓋を表蓋に合わせて取付ネジをトルクドライバーで留めてください。
- 取り出した古い電池の処分は自治体が指定した場所に設置してある「乾電池回収箱」に入れてください。

# 5. オプション機器

## 5-1. 各部の名称と機能



# 5. オプション機器

No.	名称	機能
1	無線人感センサー	安否確認通報に使用する機器で24時間・365日利用者を感知して別置センサー受信機に電波を送信します。
2	別置センサー受信機	安否確認通報に使用する機器で無線人感センサーからの感知電波を24時間受信できないときに救助通報機の第2または第3通報システムを起動します。
3	電源接続アダプタ	別置センサー受信機と救助通報機の電源を接続するために使用します。
4	外部スイッチ（市販品）	緊急通報に使用する機器で身体障害などの事由で無線発信器または救助通報機の押しボタンを押せない利用者と呼気スイッチなどを使用します。
5	無線火災感知送信器・受信器	火災通報に使用する機器で送信器は火災発生を感知して受信器に電波を送信し、受信器は送信器から感知電波を受信したときに救助通報機の第2または第3通報システムを起動します。
6	押しボタン	各種相談通報や介護・医療依頼通報に使用する機器でボタンを押して救助通報機の第2または第3通報システムを起動します。
7	外部機器（市販品）	緊急通報に使用する機器で救助通報機が緊急通報を受信したときに外部出力端子に接続して作動させるパトライトなどを使用します。
8	別置型スピーカーホン	寝たきりの方などが容易に通報でき、便利に高性能のスピーカーホンを使用することができます。
9	外部起動端子（CALL 1）	緊急通報に使用する端子で無線発信器または救助通報機の押しボタンの他に外部スイッチにより救助通報機の第1通報システムを起動させるときに使用します。
10 11	外部起動端子（CALL 2） （CALL 3）	別置センサー受信機による安否確認通報または無線火災感知送信器・受信器による火災通報または押しボタンによる各種相談通報や介護・医療依頼通報に使用する端子で救助通報機の第2または第3通報システムを起動させるときに使用します。
12	外部出力端子	緊急通報に使用する端子で外部機器を作動させるときに使用します。

## 5-2. 緊急通報用機器の設置

市販品の呼気スイッチなどの外部機器は次の方法で設置します。

1. 外部機器は利用者の近辺に取り付けて救助通報機の外部起動端子（CALL 1）に接続ケーブルで接続します。
2. 救助通報機に通報先の登録などの各種データを設定します。

## 5-3. 火災通報用機器の設置

送信器と受信器で構成される無線火災感知器は次の方法で設置します。

### 1. 送信器の設置

- ①台所や寝室などの天井に必要台数を添付のネジで取り付けます。
- ②本器の送信試験を実施して認識コードを受信器に登録します。

### 2. 受信器の設置

- ①救助通報機の近辺に添付のネジで取り付けます。
- ②本器の起動端子と救助通報機の外部起動端子（CALL 2）または（CALL 3）に接続ケーブルで接続します。
- ③救助通報機に通報先の登録などの各種データを設定します。

# 5. オプション機器

---

## 5-4. 相談・依頼通報用機器の設置

各種相談通報と介護・医療依頼通報用の押しボタンは次の方法で設置します。

1. 利用者の近辺に取り付けて救助通報機の外部起動端子（CALL 2）または（CALL 3）に接続ケーブルで接続します。
2. 救助通報機に通報先の登録などの各種データを設定します。

## 5-5. 安否確認通報用機器の設置

無線人感センサーと別置センサー受信機または人感センサー受信内蔵基板で構成される安否確認機器は次の方法で設置します。

### 1. 無線人感センサーの設置

- ①原則としてすべてのトイレの上部に必要台数を添付のネジで取り付けます。
- ②電源アダプタをコンセントに抜けないように差し込んで固定します。
- ③本器のスイッチを「ON」にし感知試験をして感知範囲を調整します。
- ④別置センサー受信機の場合は本器の認識コードを10種類から選択して設定し、人感センサー受信内蔵基板の場合は16種類から選択して設定します。

### 2. 別置センサー受信機の設置

- ①救助通報機の取付金具と重ねて添付のネジで取り付けます。
- ②救助通報機の電源アダプタを本機の入力ジャックに差し込みます。
- ③救助通報機の入力ジャックと本機の出力ジャックを添付の電源接続アダプタで接続します。
- ④本機の起動端子と救助通報機の外部起動端子（CALL 2）または（CALL 3）に接続ケーブルで極性を合わせて接続します。
- ⑤本機の認識コードを無線人感センサーと同一コードに選択して設定します。
- ⑥救助通報機に通報先の登録などの各種データを設定します。

# 6.アフターサービス(保証書)

## 6-1. アフターサービスについて

- 保証期間……お買い上げ日から1年間とします。
- 対象部分……消耗部品を除く機器本体とします。
- 保証期間中の修理……保証書の規定に従って修理いたします。
- 保証期間後の修理……修理によって機能が維持できる場合はご要望により有料で修理いたします。

## 総合通報システム じしんたすけ

お問合せ先……フリーダイヤル 0120-144-294

### 保証書

本書は、「保証・無料修理規定」に基づいて、無料修理をお約束するものです。

保証期間内に故障した場合には、本書を提示のうえ、お買い上げ店または弊社へ修理をご依頼ください。

正常なご使用状態で製品に故障が生じた場合、製品の保証書にしたがって修理いたします。ただし、製品の故障や誤動作、不具合などによって動作できなかったことによる付随的損害の補償については、弊社が加入する損害賠償責任保険の規定に基づき対処させていただきます。

商 品 名		じしんたすけ
保 証 期 間		お買い上げ日より1年間
お買い上げ日		年 月 日
お客様	お名前	
	電話番号	
	ご住所	〒
販売店名/住所/電話番号		

### 保証・無料修理規定

- 保証書記載の保証期間内に、取扱説明書などに従った正常なご使用状態で故障した場合には、お買い上げ店または弊社が無料修理いたします。
- 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合には、お買い上げ店または弊社に製品と本書をご持参またはご送付ください。尚、修理ご依頼のご持参、お持ち帰りの場合の交通費、またご送付される場合の送付費用などはお客様のご負担となります。
- 保証期間内でありましても、次の場合は有料修理となります。
  - 保証書の提示がない場合
  - 保証書にお買い上げ日、お買い上げ店印がない場合
  - 保証書記入箇所の字句を書き換えられた場合
  - 誤ったご使用方法で故障または損傷した場合
  - 輸送・移動中の落下などお取り扱いが適当でないために生じた故障または損傷の場合
  - 火災・地震・水害・雷害などの天災地変およびその他の特殊な外部要因によって故障または損傷した場合
  - 本製品に異常がなく、本製品以外の部分（例えば、設置不良・電池・他の機器など）の点検または改善する場合
  - 不当な修理や改造をされたために故障または損傷した場合
  - 消耗品（電池・取付ネジなど）を交換する場合
- この保証書は、日本国内においてのみ有効です。  
This warranty is valid only in Japan.
- この保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。
- ご贈答品、ご転居後の修理については、弊社へご相談ください。